

ペトロナス・ガス(PGAS)

2018/12 期 3Q(7-9 月)は 19.7%の増益、成長分野である油田・ガス田の閉鎖事業に注力する方針を発表

マレーシア | 石油・ガス - パイプライン | 業績フォロー

BLOOMBERG PTG:MK | REUTERS PGAS.KL

- 2018/12 期 3Q (7-9 月) は、売上高が前年同期比 20.5%増の 14.01 億 MYR、営業利益は同 21.9%増の 6.55 億 MYR、税引前利益は同 19.2%増の 6.34 億 MYR、純利益は同 19.7%増の 4.99 億 MYR となった。
- ガス精製、ガス輸送、再ガス化プラントは、高水準の稼働を維持。2017/11 に商業稼働を開始した LNG 再ガス化ターミナルも寄与した。
- 油田やガス田の閉鎖事業に取り組んでいく方針を明らかにした。同社は、不確実性の高まるエネルギー業界の中で、着実な需要拡大が見込まれる分野だと見ている。

What is the news?

12/3 発表の 2018/12 期 3Q (7-9 月) は、売上高が前年同期比 20.5%増の 14.01 億 MYR、営業利益は同 21.9%増の 6.55 億 MYR、税引前利益は同 19.2%増の 6.34 億 MYR、純利益は同 19.7%増の 4.99 億 MYR となった。ガス精製、ガス輸送、再ガス化プラントは、引き続き信頼性（設備が所定の条件と所定の時間間隔で、要求された機能を実行できる確率）で 99%超を達成。2017/11 から商業稼働を開始したジョホール州 Pengerang の LNG 再ガス化ターミナルも寄与した。公益事業も販売価格、販売量ともに好調を維持した。LNG 再ガス化設備新設に係わる設備投資により金融費用が同 74.1%増の 4,343 万 MYR と増加したものの増益を確保した。

事業別の売上高及び売上総利益は以下の通り。ガス精製部門が前年同期比 0.9%増収の 3.91 億 MYR、同 0.5%増益の 1.49 億 MYR。液化プラントが好調に推移したほかメンテナンス費用が減少したものの、新設プラントの減価償却費が重荷となり利益は小幅な伸びとなった。ガス輸送部門が同 4.7%増収の 3.45 億 MYR、同 1.0%増益の 2.59 億 MYR。サバ州・サラワク州のガスパイプラインの運営・管理収益などが牽引した。再ガス化部門は同 89.2%増の 3.15 億 MYR、売上総利益が同 2.4 倍の 1.76 億 MYR。2017/11 に商業稼働した LNG 再ガス化ターミナルが利益を押し上げたほか、ムラカ州 Sungai Udang の再ガス化施設も高水準の稼働を維持。公益事業は同 25.5%増収の 3.48 億 MYR、売上総利益が同 2.3 倍の 6,170 万 MYR。需要増に伴い販売量が伸びたほか、2018/1/1、7/1 に実施された燃油ガス価格改定（値上げ）や、電力料金の引き上げが寄与。

How do we view this?

同社親会社ペトロナスは12/11に2019-2021年の事業計画を発表し、油田・ガス田の閉鎖事業に取り組んでいく方針を表明した。2019年は原油価格が高いボラティリティを維持する見通しで、エネルギー業界の不確実性が高まる中、着実な需要拡大が見込まれる分野だと見る。要求されるサービスの多くはすぐに提供できるもよう。通期市場予想は、売上高が前期比9.8%増の52.81億MYR、当期利益が同7.6%増の19.28億MYR。

業績推移

※参考レート 1MYR=26.51円

事業年度	2015/12	2016/12	2017/12	2018/12F	2019/12F
売上高 (百万MYR)	4,456	4,561	4,809	5,281	5,359
当期利益 (百万MYR)	1,987	1,739	1,792	1,928	1,913
EPS (MYR)	1.00	0.88	0.91	0.97	0.95
PER (倍)	19.18	21.80	21.08	19.77	20.19
BPS (MYR)	5.78	6.05	6.32	6.60	6.86
PBR (倍)	3.32	3.17	3.03	2.91	2.80
配当 (MYR)	0.60	0.62	0.66	0.68	0.69
配当利回り (%)	3.13	3.23	3.44	3.55	3.60

(出所: 会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

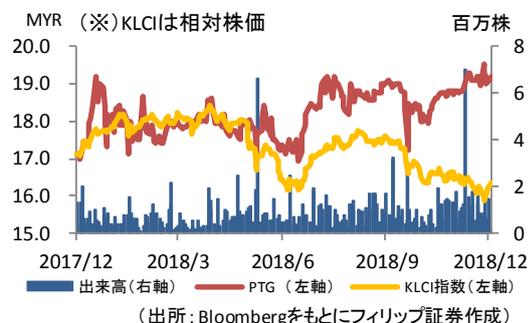
配当予想 (MYR)	0.68	(予想はBloomberg)
終値 (MYR)	19.18	2018/12/24

会社概要

1983年設立。マレーシアの大手国営石油会社であるペトロナスの傘下で、主力は天然ガスの精製、輸送、天然ガスの公益サービス、天然ガスの再ガス化の4事業。ガス・パイプラインにより、マレーシア国内及びシンガポールの顧客に天然ガスを供給している。1998年以來、マレーシアのKertihやGebengにある生産拠点で天然ガスの製造を開始。2007年には、PETRONAS Carigali Sdn Bhdと提携し、プロジェクトマネジメントやSabah-Sarawakのガス・パイプラインのプロジェクトを進め、2013年に完成。2009年には、電力会社のKimanis Power Sdn BhdをNRG Consortium (Sabah) Sdn Bhdと合併で展開した。2013年、マレーシアのSungai Udang, MelakaにあるLNGの再ガス化ターミナルでのコミッションング（検証）により、天然ガスの需要が拡大するマレーシアにLNGをもたらすことが可能となった。

企業データ (2018/12/25)

ベータ値	0.90
時価総額 (百万MYR)	37,952
企業価値=EV (百万MYR)	38,266
3か月平均売買代金 (百万MYR)	16.1



主要株主 (2018/12)

	(%)
1. マレーシア国有石油公社	60.66
2. Kumpulan Wang Simpanan Pekerja	9.27
3. Kumpulan Wang Persaraan Diperbadankan	4.45

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

アナリスト

増淵 透吾

togo.masubuchi@phillip.co.jp

+81 3 3666 0707

庵原 浩樹

+81 3 3666 6980

hiroki.ihara@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員 庵原浩樹

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増淵 透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。